

# 関東ふれあいの道

## 埼玉県篇No.11 義経伝説と滝のあるみち

報告：FT

◎期日：2024年10月20日

◎メンバー：FT(L)、SM(SL)、IK

顔振峠は「奥州に逃れる義経が従者の弁慶達と山越えをしたところ。あまりの絶景に振り返り、振り返りしなが先を急いで行った、と伝わっている」とガイドブックにあった。標高は530m、高尾山とあまり変わらない顔振峠が、そんなに展望が良いのだろうか？と半信半疑で吾野駅前より歩き始めた。

やがて顔振峠に近くなると一気に展望が開けた。なるほど、展望がよい。大霧山の山頂と同様、山の展望看板があり山座同定しなくても山名が分かる。

近くの武甲山は大きくて、採石で切れ落ちたような斜面の姿はひときわよく目立つ。武川岳、子持山、大持山など近くの山は勿論、天目山、そばつぶ山、川乗山、本仁田山、棒ノ嶺、御前山等の奥多摩の山々も一望だ。富士山は本来は見えるはずだがかすんでおり、小生の視力では良く分からなかった。



顔振峠手前から、奥多摩の山々



武甲山、武川岳、子持山、大持山の遠景

顔振峠に着くと、ゼッケンNOを着けたランナーが次々と通過していく。関係者らしき方がおられたので尋ねると、この日は「奥武蔵ウルトラマラソン大会で、距離は68.1Km」とのこと。山を登ったり下ったりしながらの「68.1Km」には驚いた。ちなみに我々の本日のコース距離は8Km(実際は通行止めにより迂回したため9.1Km)である。





しばらくは舗装林道歩きなので、ランナーの皆さんに追い抜かれながらその後ろ姿を追いながら歩いた。傘杉峠へはそのまま舗装林道でも行けるが、大峰山を踏んでいくことにして、途中から山道に入る。登り着いた大峰山(622m)は、小さな狭いピークであった。山頂名の表示は見なかったが、YAMAPで確認する。年間の登頂数に拘っているIKさんは1山ゲット、今年「113座目」とのことで、ニコニコである。ここを下って傘杉峠に到着。これより黒山三滝方面に下る予定であったが、何と、「通行止め」になっていた。「この先で大量のスズメバチが確認されました。安全が確認されるまで入山はご遠慮ください」とあった。大量のスズメバチにはとてもかなわないので、少し戻って「役の行者」を経由して黒山三滝に向かうことにした。



下って行くと大平山の案内標柱があった。すぐ側なので、大平山にも登って見た。IKさんは2座目をゲット。この登り口に「役の行者」石像があった。狛犬代わりのような石像もあり、全部で4つの石像があった。いつ頃に作られたものだろうか？かなり古いと思われた。役の行者がここまでやってきたのかどうか知らないが、何か説明パネルが欲しいところだ。



義経は鎌倉時代の最初期の方であるから、大昔・・・であるが、修験道の開祖として知られる役の行者は奈良時代だから義経より更に昔である。現在では、奥武蔵、秩父を問わずどここの山に行くにも電車やバス、マイカーなどを使えば、簡単に楽に行けるが、その昔は山道しかなかったであろうから大変であったろうと想像出来る。

ドンドン下って行き、やがて黒山の滝に到着。登山道は天狗滝が見やすいように付けられていて、下から観光の方々が上がってきておられた。すぐ下に車道が通しており、マイカーなら簡単に滝見に来られるようだ。

しかし、バスが、・・・。黒山バス停には13時45分頃に着いたが、次のバスは2時間後である。過疎化で乗る人が居ないので、仕方無いところではある。

少し戻って、食堂？を見付け、チト早いビールで乾杯とした。

#### <コースタイム>

吾野駅	9:23
顔振峠	10:52-11:16
大峰山	11:44-11:50
傘杉峠	11:56-12:08
大平山	12:35-12:46
黒山三滝	13:23
黒山	13:46

所要時間=4:22, 休憩=38分, 距離=9.1km,  
のぼり=659m, 下り=674m



観光客も訪れる天狗滝